



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、高知市教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

令和4年度 研究主任研修会

令和4年6月24日(金)実施

対象：高知市立小・中・義務教育・特別支援学校 研究主任

概要 学校教育目標の具現化を目指した校内研修の意義を理解し、校内研修体制の確立や効果的な校内研修の実施を推進するために、研究主任として必要な力量を高める。

【講義・演習】「コロナ禍の校内研修・校内研究における研究主任の在り方」

講師：調布市立多摩川小学校 庄子 寛之 指導教諭



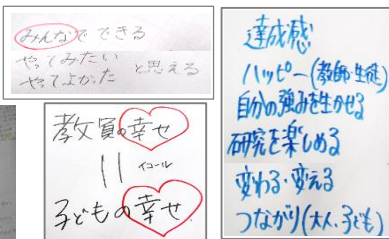
やらされる校内研究から やりたくなる校内研究へ！



どんな校内研究にできたら幸せですか？

研究を深めるために！

グループの成果物(抜粋)



- ・ 年度初めには昨年度の研修の振り返りをする
- ・ 校内研究のゴールイメージを共有し、軸を決める
- ・ 年間を通して同じ講師を招聘する
- ・ これからの時代に絶対必要な教師の学び直しをする
- ・ 楽しくやれるような環境づくり、時間の確保をする

「自分のために」が「子どものために」になる
とにかくみんなでやっという

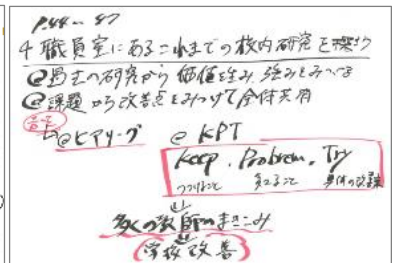
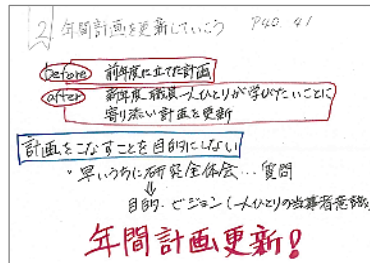


ABDで学びを深める！

ABDの手法で担当ページの内容をまとめたもの



庄子先生の著書
を使って
ABDの手法を体験！
(Active Book Dialogue)



- (1) 1冊の本を裁断し、3～4ページずつで割り振って読む。
- (2) 担当ページの内容をまとめ、大事なことを1枚の紙にまとめる。
- (3) まとめた紙をページ順に並べる。
- (4) 全体で共有する。

【受講者の感想】

- ・ ABDという方法を使うことで、長文の本などを短時間に全員で読み合うことができ、とても参考になった。
- ・ 一人一人が自分事として読み込むことができ、それを全体でシェアすることによって学びが深まると感じた。

【受講者の感想】

- ・ 「研究主任が学び続ける姿勢が大切」という言葉が心に残った。学校をよりよくしていくために、様々なことを提案していたが、「自分自身が様々なことに挑戦し、学んでいくことが大切」だと感じた。また、「あなたが学びを楽しめば、学びは伝染する」というお話は、日々の授業(子どもたちとの関係)と一緒に納めることができた。
- ・ 今年初めて研究主任となり、何をしたらいいのか分からないまま日々が過ぎていた。まずは職員室の環境づくりをしていると聞き、はっとさせられた。「研究を共にする仲間とコミュニケーションをとる」、「細かい配慮をする」等、すごく大切なことだと思った。その上で、学ぶ姿勢を忘れず、みんなで意識をそろえてやっていきたい。
- ・ 研究主任の仕事として、研究への雰囲気づくりや人間関係づくりがあると分かった。同じ考えをもった人ばかりではない。様々な考えをもった人を巻き込んで、子どもたちのための研究と一緒にしていかなければならない。研究主任は研究を一人でぐんぐん進めるというよりも、いかに全員で研究に向かえる空気をつくり出すかということに重点を置くべきなのだと思う。

対象:高知市立学校養護教諭

概要

【講義・演習】「自尊感情をどう理解し育むか～今、私たちにできること～」

講師:日本ウェルネススポーツ大学 近藤 卓 教授

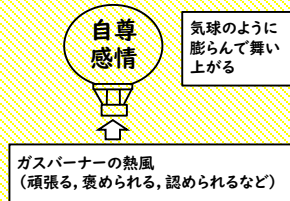


自尊感情とは、自分を大切に思う気持ち。その自尊感情を育むためには、社会的自尊感情(向き合う関係)と基本的自尊感情(並ぶ関係)のバランスが大切!

人と人の関わりの基本形

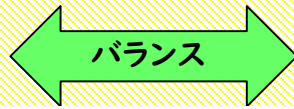
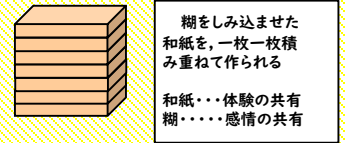
○ 社会的自尊感情(向き合う関係)

褒めて育てる → 自尊感情が高まる



○ 基本的自尊感情(並ぶ関係)

共有体験の度に積み重なって厚みを増す

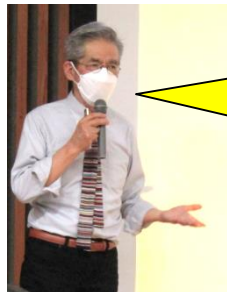
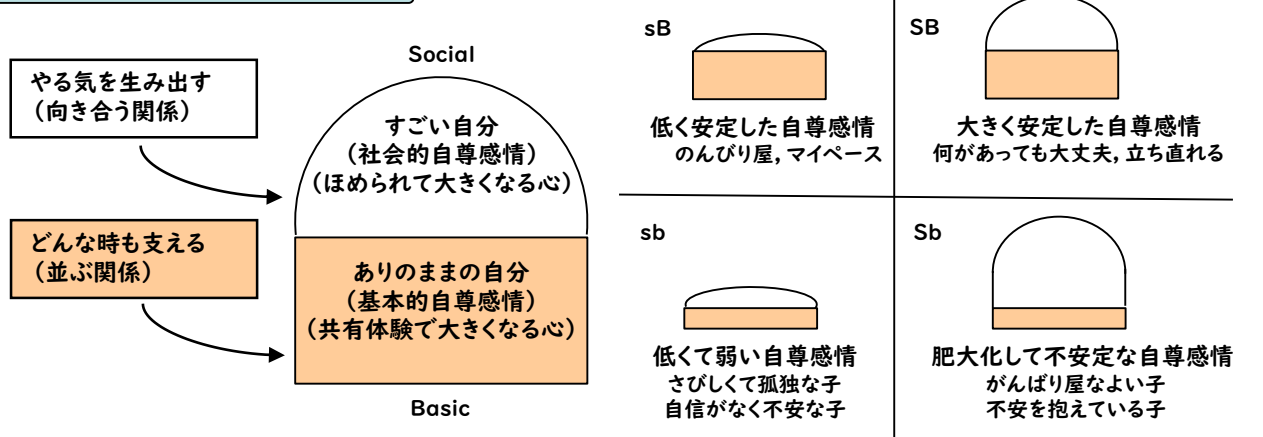


※ 自尊感情は、成功体験に比例して高まっていくが、日本の場合は学年が上がるに従って周りからの要求が高くなるために下がる傾向がある

反面 「すごい自分」という思いから自己中心的になったり、人より優れているという優越感をもったりするようになる場合と「自分なんて」という思いから自尊感情の低下が見られる場合がある

反面 基本的自尊感情を育てるには時間がかかる

自尊感情の四つのタイプ



自尊感情の四つのパターンのうち、SBを除いたパターンでそれぞれ心配されることがあるが、一番心配されるSbのパターンは、危機的状況に陥る場合がある。なぜなら、ここに属する子どもは、クラスではがんばり屋であり、不安を抱えていても周りからは褒められることも多いために、ありのままの自分をなかなか出すことができない。そして、土台が育たないうちに、上の部分が大きくなり、突然、自尊感情が崩壊してしまう場合がある。また、基本的自尊感情が少ないためにいじめること(下を見て相対的な優位性を維持)で社会的自尊感情を高め、自尊感情を保とうとする歪んだ社会的自尊感情が形成される場合もある。そうしたことが起きないようにするためには、時間はかかるが、ありのままの自分(基本的自尊感情)を日ごろから育てていくことが大切になってくる。

【受講者の感想】

これまで自分がなんとなく感じていたことが、近藤先生の講義を聴いてはっきり見えた感じがしました。自尊感情には二つの領域があり、基本的自尊感情がとても大事であること共有体験の積み重ねが大切であることに改めて気付くことができました。今後は、基本的自尊感情が低い子どもの見極めやアプローチの仕方を考えていきたいと思ひます。また、共有体験をできるだけ多くの子どもともてる時間の確保や取組について学校全体で話し合っていきたいと思ひました。